

1 本園の教育目標

明るく逞しく、心豊かで、調和のとれた人間性の基礎を育む

2 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・子どもの内面理解につながる様々な記録を工夫し、それをもとに保育者同士で語り合う
- ・幼児自らが環境に働きかけることができ、感性が磨かれるような多様な体験ができる環境づくりに取り組む

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組状況
I 保育の計画性	A	幼児の姿を捉えながら、環境構成を工夫し、子どもの興味関心の幅を広げる柔軟な計画を心がけてきた。室内・園庭の遊具の見直しにもつながらせていきたい。
II 保育の在り方	A	幼児の姿を記録に残すことで、小さな変化、言動の習慣性などが見えるようになり、予測や理解がより深まった。学び合う機会を重ね、全職員で一人ひとりを見守っていく体制作りに努めている。
III 保育者としての資質・能力	A	経験年数や園の課題等に応じた研修を充実させ、資質及び専門性を高め、質の高い幼児教育をめざした取り組みを行った。
IV 保護者対応	A	保護者会からの意見も参考にしながら行事等の見直しを行った。園内での事故やけが、体調の変化について状況を的確に報告することを心がけた。
V 研究と修養	B	園内研修等で、教師同士が語り合う機会が増え、積極的に課題に取り組みスキルアップにつなげていった。関係機関と情報共有を行い連携を深めた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4 総合的な評価結果

評価	理 由
A	行事をコロナ前の土曜日に戻したり、ホームページの更新を増やしたり、Instagramの解説をしたりし、園内での様子を広く知らせながら保護者への対応も改善を行った。研修会に多く参加し、自園の課題や自分の保育を見つめ直すことができ、保育内容の向上につながっていった。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取組方法
1	環境構成・幼児理解	新しい環境や教材、玩具の使い方、安全面について理解と研究が必要である。幼児の自主性、主体性を高める環境づくりに取り組む。
2	保護者対応・子育て支援	未就園児親子登園の充実に取り組み、園の教育について理解してもらうための工夫に取り組んでいく。
3	自分自身や互いの保育の良さと課題を明らかにする	互いの保育を参観し合い、研究し合える機会をつくり、保育者としての資質・能力の向上につなげていきたい。

6 学校関係者評価委員会の評価

- ・ 保育内容の向上のため公開保育を導入し、日々の保育に大きな成果をあげている。全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が開発した ECEQ®を導入し、県内外から 24 名の他園保育者に公開保育を実施し、保育の質向上に努めたことにより、本年度の重点目標である「子どもの内面理解につながる様々な記録を工夫し、それをもとに保育者同士で語り合う」ことができた。公開保育時の指導案からも保育の質の高さをうかがえる。今後の課題に挙げられている「自分自身やお互いの保育の良さと課題を明らかにする」については、教員間での雰囲気づくりやコミュニケーションを土台に、保育の質や内容の向上につながることを期待している。
- ・ いつもしっかりとした取り組み方と目標に向かって、計画のもと園全体での向上性が伺える。新しく取り入れた ECEQ®によって外部とのかかわりを持つことで、さらなる方向性を深められていたことが来年度へも教育現場で生かされるよう期待している。
- ・ 少子高齢化のなか、キリスト教の精神に則り、経営・運営努力をしていると評価している。ただ、園児の安全を確保し、自然災害その他のパンデミックによる緊急事態対応時における BCP（事業継続計画）の早急な検討・策案を推進してほしい。